

# 語り部ネットワークまび 2021年度活動報告

## 2022/3/20 オールまび語り部の会 2022



<b>オールまび語り部の会 2022</b> <b>3/20 日曜</b> <b>オンライン開催</b> From マービー展示室	<b>第一部</b> 竹でつながろう! 竹のまちの復興ものがたり 10:00~12:00 ◆竹のオーケストラ 守屋綾子さん ほか 演奏とトーク	<b>第二部</b> 竹に触れる体験会 12:30~13:30 ◆泥の中から蘇った竹の楽器を叩いてみよう 体験会 竹のオーケストラの皆さん	<b>第三部</b> 広げよう深めよう! 「あの日」から生まれる語り合い 14:00~16:30 ◆矢掛高校3年生の時に被災したふたりの大学生から 瀧野乃穂佳さん 西川奈美穂さん 講師(経験者)です
	◆竹製家具雑貨展 藤原 徳子 伊山正博さん 伊まち53106、竹製家具協会へ	◆大江戸玉すだれ 体験会 竹熊倉の徳さん	◆子どもたちの笑顔が元気の素 地域と学校のつながりの中で 新田小学校支援地域本部 守屋美穂さん
	◆高槻町地域活性広聴隊 竹あかり 出井織さん 真備に復興のともじびをそめて、生活の中に竹のめくもりを ◆竹工房 新庄政重さん 田中 浩さん	◆まきび川柳会 作品発表 高杉亮作さん	◆被災地を走る「語り部タクシー」 日の丸タクシー 平井智之さん

**主催**  
語り部ネットワークまび  
【倉敷市市民企画推進事業】  
マルセススポーツ・文化振興財団助成

**共催**  
まび創成の会

**参加方法**  
●Youtubeチャンネル「語り部ネットワークまび」からライブ配信を見学する  
●ZOOMで対話に参加する  
申込みメールアドレス: katanibemabi@gmail.com  
●真備町内のサテライト会場に出席可 / 人数制限あり  
携帯 090-3433-0993 大槻

**コメント**  
語り部KOBE1995 田村耕太郎さん 長谷川元哉さん 石塚裕子さん

### 第三部のサムネイル画像



### 第三部のアーカイブ動画



### ライブ配信スタジオ

マービーふれあいセンター  
展示室



団体名	語り部ネットワークまび
	代表者 大熊正喜 記載者 同左
所在地(市区町村名のみ)	倉敷市玉島
活動目的	社会に甚大な影響を及ぼした災害であっても、その歴史はその歴史や体験・記憶を伝え続けていくことは難しく、地域社会や生活に教訓として活かされにくい現状がある。そこで、平成30年西日本豪雨災害の経験を教訓として、防災力を高めた安全で安心な社会をつくることを目指し、語り部活動の支援をしたいと考える。
団体の紹介	<p>2020年12月に発足した私たちの会は、2021年度より倉敷市の市民企画提案事業に採択され、小さな歩みを始めました。真備のあの災害の記憶を後世に語り継がなければならないという思いを持つ様々な個人や団体がゆるやかにつながり、倉敷市とその周辺地区で、被災と復興の体験を語り合い学び合う会が持続的に開催されることを目標としています。</p> <p>私どもは一般的な被災地の語り部の「型」にはこだわらず、その人その人の得意なスタイルで、持ち味を生かした多様な「語り」を発信しながら、真備の中でも真備から外に向けてもつながりあっていく、そういったネットワークを目指しています。</p>
助成を受けての活動内容	<p>平成30年西日本豪雨災害の真備町被災者による語り部活動を支援するために、以下の四つの事業を毎年計画的に行っています。</p> <p>①災害伝承先進地に学ぶ「語り部研修会」の実施          ②多世代多様な地域住民の参加する「オールまび語り部の会」の定期開催          ③災害伝承のための活動成果のデジタルアーカイブ化と年次記録冊子の発行          ④真備への復興防災スタディツアー等に対する「語り部」の紹介</p> <p>2021年度 ①については、-----</p> <p>語り部の大先輩「語り部KOBÉ1995」阪神淡路大震災の26年間の語り部活動に学ぶ機会を持ちました。コロナ感染の拡大期でもあり、真備町内に三ヶ所のZOOMでつながるサテライト会場設け、ご自宅から繋がれない方もお集まりいただいて、神戸の会場とオンラインで結んで開催しました。神戸からは 私たちの ネットワークにもご参加いただいている「語りベ七夕会」のアドバイザーである大阪大学の石塚さんのご尽力で会場確保していただきました。</p> <p>②については、-----</p> <p>毎年年度末に開催しています。今年は3月20日にマービーふれあいセンター展示室をライブ配信のスタジオとして、下記のような3部構成でオンライン開催しました。</p> <p>第一部 ■===竹でつながろう! 竹のまちの復興ものがたり          第二部 ■===竹に触れる体験会          第三部 ■=== 広げよう深めよう! 「あの日」から生まれる語り合い</p> <p>語り部の活動が型にはまらない多様性とひろがりを持つものとして、個人の被災した時の体験に限らず、その困難を乗り越えながら復興の道を歩んできた経験を語りの中に取り入れていただき、さらに地域の中の文化芸能団体の被災前からのグループ内外のつながりが被災を乗り越える中で力になった経験を語るということで進みました。</p> <p>③については、-----</p> <p>以上のようなオンラインによる開催を続ける中でそのアーカイブ動画を YouTube 上に整理して公開するとともに、登壇いただいた皆様から原稿を集めて記録冊子を作成しています。</p> <p>アーカイブ動画については YouTube の中で「語り部ネットワークまび」というキーワードで検索すると、一番上に私どものチャンネルが出てきます。その中に再生リストに整理されてそれぞれの会の動画がいつでも見られるようになっています。</p>
助成を受けての成果	<p>2020年12月、私達は「語り部ネットワークまび」として西日本豪雨災害の経験を世代を超えて語り継ぐための真備での「プラットフォーム」として名乗りを挙げ、地元のマスコミにも取り上げていただき、このプラットフォームで様々な団体・個人が緩やかに繋がります。インターネットで「語り部 真備」と検索すると、私どもの Facebook のページが一番に出てくるようになりました。</p> <p>2021年3月28日に続いて今年度2022年3月20日には「オールまび語り部の会」を開催し、夏に開かれる先輩語り部とつながった「語り部研修会」とともに、オンラインではあるが有意義な語り合い交流の場を継続的に持つことができています。</p> <p>更に、語り部ネットワークまびのYouTube チャンネルでは、それらの動画記録を整理して残すことができています。</p> <p>今回、マルセン財団の助成を受けて、そのようなアーカイブ動画と併用する紙媒体での記録冊子の作成を初めて実施することができました。</p>
今後の活動の課題点	<p>コロナ禍で公共施設の使用が制限され大勢の人が一堂に会することが憚られる状況が続いています。被災地で地域住民の ICT 技術の普及を図っているチームと連携し、語り部の活動のオンライン化を進めてきました。今回、ライブ配信スタジオを設営してパネリストの皆さんには集まっていたが、オンラインで語り部の会を開催しましたが、セッションの終了後会場ではリアルに会って交流することで初めて実現できる豊かなコミュニケーションが行われていました。</p> <p>このようなことから、感染状況を見ながらオンラインとリアル開催を併用できる開催方式を開発していかなければならないと考えています。</p>
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	<p>Facebookページ ■ <a href="https://www.facebook.com/kataribemabi/?ref=page_internal">https://www.facebook.com/kataribemabi/?ref=page_internal</a>          Youtube内で「語り部ネットワークまび」と検索</p>